作州ワイド版

春の叙勲　喜びの受章者

（順不同）

一人一人大切に

〈瑞宝単光章〉
元作陽保育園長
有木信子さん(70)
津山市上之町

津山市などの保育現場に40年勤務、うち園長を25年間務めた。短大や高校で人材育成も担い、県や国の役職も歴任。多彩な人脈で地域保育に貢献した。

「一人一人の子どもを大切に」がモットー。特に健康づくりを重視し「料理や遊びで親子が触れ合う体験を通じ育成に取り組んだ」。現在も健康と音楽の分野で支援を続ける。

山中で迅速救命

〈瑞宝単光章〉
元真庭市消防団副団長
小野田賢祐さん(64)
真庭市黒田

高校卒業後すぐに地元の消防団員になり、45年間にわたり活動。分団長時代に高齢女性が行方不明になった時、20人ほどの団員の指揮を執って山中での無事発見に貢献した。

「山間部は細い道が多い。迅速な救命には、消防車や救急車の交通整理といった裏方の仕事も欠かせない」と団員の役割分担の重要性を強調する。

団員の団結重視

〈瑞宝単光章〉
元勝央町消防団長
小村雅紀さん(64)
勝央町石生

1984年に団員となり、2002年に副団長。10年から団長を8年間務めた。酪農をしながら、火災や捜索などの現場に率先して足を運んだ。

「団員の団結、結束」を常に心掛け、女性班の創設にも取り組んだ。

災害はいつどこで起こるか分からない。「地域を守るため、力を結集して伝統をつないでいってほしい」

有事想定し訓練

〈瑞宝単光章〉
元久米南町消防団副団長
直原範男さん(64)
久米南町南庄

「地域は自分たちが守るという信念を43年間貫き通した。それが私の誇り」。1975年に入団。2014年の副団長就任後は、危険物の知識を学ぶ研修や有事を想定した実践訓練を重視し、団員の資質向上に努めた。

今でも火災の報が入ると現場に向かう。「一線は退いたが、住民の暮らしを守るため協力を惜しまない」

大火事延焼防ぐ

〈瑞宝単光章〉
元真庭市消防団副団長
中島秀典さん(64)
真庭市月田

「育った地域に恩返ししたい」と20歳の時から42年間活動。1996年、家具工場が全焼した大火事では1日半も消火を続け民家への延焼を防いだ。

「火事の未然防止に力を注がねば」と20年前に始めた月2回の啓発パトロールは今も受け継がれている。安心して暮らせる地域にしてほしいとの思いを後進に託す。

救援活動に奔走

〈瑞宝単光章〉
元久米町消防団副団長
枡形章弘さん(85)
津山市一色

大きな河川の少ない地区で、ため池から速やかにポンプをつなぐ訓練に尽力。川に流された子どもを捜し出せなかった経験から「どんな時でも住民の命を守る」と誓い、山火事の消火や災害時の救援活動に奔走した。

1954年に入団し、84年から約7年間、副団長。団員数の減少を懸念し「若い人にも地域の安全に尽くしてほしい」と願う。

率先し倒木処理

〈瑞宝単光章〉
元津山市消防団分団長
保田直實さん(73)
津山市野村

1974年に津山市消防団に入り、95年から24年間、成名分団長を務めた。2004年の台風23号では広戸風による倒木で道路網が寸断された。住民の生活のために、率先して倒木処理を行った。

大規模災害が近年増えていることを踏まえ「避難の際は近隣住民で声を掛け合ってほしい」と共助の大切さを訴える。

コロナ対策115億円

市、補正予算案編成

給付金やタブレット配備

津山市は12日、新型コロナウイルスの経済対策を中心とした115億5928万円の2020年度一般会計補正予算案をまとめた。（25面関連）

1人10万円を支給する国の「特別定額給付金」の事業費に102億2547万円を計上。小中学生に1人1台のタブレット端末を前倒しで配備するため3億5788万円、臨時休校に伴う放課後児童クラブの開設経費や

電子版なら他の地域版も読める
山陽新聞デジタル
https://www.sanyonews.jp

身近なニュース、会合、催しなど、お知らせください。

津山支社
〒708-0004
津山市山北470-1
TEL：0868-23-6822
FAX：0868-23-6820
tsuyama@sanyonews.jp

コロナ影響　売り上げ減

作州の飲食店 応援しよう

テークアウトや宅配　紹介サイト相次ぐ

作州地域の企業やNPO法人などが、新型コロナウイルスの感染拡大で打撃を受けている飲食店を支援しようと、テークアウトできる店などを紹介するウェブサイトを相次いで開設している。

（山根上貴、中村啄也、小川耕平）

テークアウトや密閉、密集、密接の「3密」を避ける対策をしている店舗を紹介するサイト「がんばろう津山応援隊」。広告代理店「サンライト」（津山市北園町）が開設し、同市、鏡野、奈義町の飲食店や小売店約20店舗を載せている。

佐野芳章社長(62)は「各店舗の取り組みを知ってもらい、できる範囲で応援してほしい」とメニューのほか「出入り口のドアを開放」「定期的な換気」など各店の対策を盛り込んだ。

飲食店経営やホームページ作成のプランニングなどを手掛ける「IroDori」（同市志戸部）は社名と同名のサイトで県北を中心にテークアウト可能な約20店を紹介。寺阪渉代表(33)は「みんなでこの状況を乗り切りたい」と話す。

つやま産業支援センター（事務局・同市）は市内事業者を支援する「津山支縁（えん）プロジェクト」の専用サイトで持ち帰りや宅配情報を掲載している。

「まにわのお持ちかえり」は真庭市と新庄村の観光振興を図る一般社団法人「真庭観光局」が運営するサイト。両市村の約40店の料理の写真やテークアウトメニューが分かる。ジャージー牛肉入りオムライス、ひるぜん焼そばなど地域ならではの味も多い。

NPO法人「市民活動センターみんなでしようえい」は、美作市、勝央、奈義町、西粟倉村の飲食店を支援するサイト「勝英エール飯」で約40店を取り上げている。「#勝英エール飯」のハッシュタグ（検索目印）を使って店や利用客がSNS（会員制交流サイト）に写真などを投稿して広めている。

貝原博子代表(49)は「近くでも意外と知らない店に出合うきっかけにもなれば」と話している。

いずれも掲載は無料で、サイトなどから申し込む。他にも同様のサイト開設やエール飯と銘打ちSNSを活用する取り組みが広がっている。

がんばろう！津山応援隊　検索　メニュー

私たちにできること

ソーシャル・ディスタンシング
密閉・密集・密接の「3密」を避けましょう。

このサイトでは、津山市内及び鏡野町・奈義町の密閉・密集・密接の「3密」を避け、独自の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染防止策を実施している事業所（店舗）の取り組み内容をお知らせしています。

※2020年5/7から順次掲載始めました。

津山市などの店舗を載せているサイト「がんばろう　津山応援隊」

サイト「まにわのお持ちかえり」は真庭観光局が運営する

勝英地域の店を紹介しているサイト「勝英エール飯」